

人権教育と私達

大代中3年 岩田修二

障害を持った人を見る時は、必ずといっていいほど一人なのです。おそらく毎日の生活も一人ではないでしょうか。

これは、その人自身の責任もあるかもしれませんが、八十パーセント以上いや九十パーセント、その人を囲む人々に大きな責任があるのではないかと思います。

ある障害を持った子がこんな事を言っていました。

「外を歩いていると、僕を見て何か言いながら通り過ぎるのです。だからとても外へ出るのがいやになるのです。障害を持った人は、ただでさえ消極的になりがちなのに、じろじろ見られたりすればなおさら消極的になってしまいます。

つまり、消極的になってしまえば人

前に出ることなく友達も出来なくなり、生涯をさみしく生きて行かなければなりません。そうなるとなんのためにも世に生まれてきたのかわからなくなってしまう。絶望と言う他ありません。一人で生きて行くなんて今の人間・未来の人間には不可能なことなのです。

人間は、一人ではどうしようもないのですから。

同じ地球の上、同じ空の下、同じ空気の中で生きているのだから、せつかく生まれて来て楽しく生きて行けないなんて悲しいことのないように、障害を持った人と優しく接したいものです。

世界人権宣言

— 人権の共存 —



第一条 すべての人間は、生れ乍らにして自由であり、尊厳と権利について平等である。

人間は理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神を以て行動しなければならぬ。

日本一の石段マラソン

— 大会に参加して —

下市 熊谷正範

一畑薬師マラソン大会に連続五回出場して遂に自己の記録を更新する。

去る十一月十一日行われた第六回大会は、全国、北は富山から南は沖縄まで過去最高の一三八二人の男女が出場。激しい雨に見舞われると云うあいにくのコンディションでありました。

一一三八の石段あり、急な登り坂ありの難コースに熱いマラソン絵巻を繰り広げました。

還暦は人生の折り返しといわれています。私は六十歳から還暦マラソンをはじめたものです。今年^よは齢も六十四歳になりました。六十歳以上五斤に全国^のの健脚五七人が参加し自己の体力・気力の限界に挑戦しました。自分ながらよく頑張つて、順位は十七位でしたが、五回出場の自己最高記録二八分三八秒で完走できたことを喜び、健康の有難さに感謝しました。

十二時雲水姿でピストルを持つ勇ましい格好の飯塚管長の号砲一発で九六二

人が一斉にスタート、五料にいどんだのです。強い雨が顔や体にあたるスタート直後の急な下り坂は苦しい。そして平坦、ゴールは最後に待ち構えるのが一三八を数える心臓破りの石段この地獄の石段を駆け抜けるとゴールは目の前、だが前へ進もうとするが足が進まない。しかし選手たちは顔や手足を真っ赤にし、懸命に走りゴールした。その気持ちは日本晴れのようにでした。『マラソンは真理を究める道です』人間は年に負けてはダメです。足腰から老化が始まります。マラソンは気力体力それに実行力がつき人生が楽しくなります。健康マラソンを軸とした素晴らしい最後の人生を送りたい。
歳をとることは決して恐れることはありません。心と体と頭の衰えることこそ恐れなければなりません。

文化祭を終えて

— 生産部から —

部長 泉 朋 納
「百日の早天もモウ一日」とか、水不足の最中とはいえ今一日天気であつたらと惜しまれた当日の雨、その雨に

崇られはしたものの最近にない内容と出来栄であつたと思う。日一日と何かしらさびれゆく様を身辺に感じ之を目で耳で確かめ合う様な現実の中で、何とかして歯止をかけこの大代にかつての活力を再現したいと念ずる人々の現われであろうか。

今年も生産部を担当したが、部長の方々が苦勞して作成された稲作増収の実態も、又はじめて取入れた特産メロン栽培の成果、そして畜産経営の指標も、農家にとっては欠く事の出来ない資料であるものの、関心が無いのか、意欲がないのか、其処に足を止める人の少いのには嘆かざるを得ない。

新しく焼芋屋をはじめたが、不馴れのため最初から成功はしなかった。でも前日から材料の買出し、仁万海岸での採石、夜中の管理、当日の焼芋販売と、七名の気の合った作業は高く評価されてよいと思う。

来年は地元の芋で今年の経験を生かして成功させたいものだ。それにしても、やりかえの出来る来年という年のある事は結構な事である。

12月少年健全育成指標

明るい家庭に

良い子は育つ

大江高山登山記

— 山田側から挑戦 —

山田 渡 淳

明るいふる里づくりの一つに、大江高山登山道の開拓があげられている。去る十一月三日文化の日を記念して橋本館長外十二名の者が、朝八時四十分山田谷口正見氏宅広場を出発した。腰に鋸や鉋、手に樵鎌や長柄の鎌と物々しい出発である。天気は快晴。

谷口通雄氏が麓まで道刈りをしておられる杉林をしばらく左に進む。いよいよ急傾斜の高山西側の尾根を登る。中腹で一服、眼下の中国山地の峰々の間を縫って流れる中国太郎こと江川の雲海はすばらしい。

汗が冷えて再び登り始める。安食巡査を除いて六十才を越した者が殆ど、秋酩酊の紅葉の間からまれる日は暑く、石ごろの急勾配は身にこたえる。出発して一時間半で頂上に達し

た。下着は汗でびっしょりである。

遅れて七十才を過ぎ少し心臓がといわれる谷口通雄氏や、足の不自由な窪田繁太郎氏が登頂され驚く。

早速西側の頂上附近の下刈りをして広場を作り、栗の古木の枝に丸太を組み展望台を完成する。

展望台に上ると、眼下に大代の全景や、大邑開拓地が見える。中国の連山は固より、日本海の青い海原に、島根

半島西端の日御崎の灯台がくつきりと白く浮かび、大田、仁摩、温泉津、江津の海岸から益田の高島までが一望でき、誠に雄大壯観な眺めである。

下山は四十分位かかる。
小学校高学年から婦人でも登山でき健康づくりの上からも郷土の山に登り大いに鋭気を養って欲しい。

登山者（谷口通雄、窪田繁太郎、高崎章、熊谷正範、泉朋納、松井幸、今田不三夫、竹間茂、田平勝美、原田一徳、橋本昭二、安食洋児巡査、渡淳）。

年末の事故をなくそう

大代駐在所 安食洋児

年末をひかえて、一〇二お願いをい

たします。

先日、大森町で老婦人が車にはねられてなくなるという事故がありました。原因は色々ありますが、弱い者の立場から事故を避けるということで、次のことを守るようにして下さい。

◎自転車・歩行者も交通ルールをきちんと守って下さい。

◎早朝・夜間は明るい服装をし、照明具を持ち、自転車は点灯する。

次に運転者の方に、年末は忘年会等で飲酒の機会がふえますが、飲酒事故は懲役・損害賠償などで家庭を崩壊させる原因にもなりますので、飲んだら乗らないをまもって下さい。

最後に、空巢狙いなどの予防についてですが、最近の訪問販売業者などの中には、留守宅をねらって泥棒をする悪質な者が時々いますので、見知らぬ業者の訪問を受けたような時は、売買のトラブルを防ぐ為も含めて駐在所へ連絡して下さい。

青空に風船が飛んだ!!
——大代小学校花いっぱい運動——

十一月三十日、午後三時三十分—大

代小学校から打上げられた人工衛生ならぬ花の種を抱いた風船数百。

赤、青、黄色、ピンク、色採りの鮮やかないでたち、そしてマリーゴールド外、花の種を積んだ空からの親善使節、笛を合図に一斉に飛び立った。

幼稚園・小学校・PTA、約百五十名の見守る中を折からのやわらかい秋の日差しを受けてアレイアレイと云う間にシャボン玉の様に小さく輝きながら、はるか東南の空へ旅立ちました。

遠くは千葉、群馬県を初め京阪神・四国方面から到着の便りが有ったとか、きつと良いお友達の手渡し、幸の便りが届きます様に、そして其処にも立派な花が咲きます様に祈ります。

近頃思う事

下市市原孝子

あれも教わらなければ、これも覚えなければと絶えず追いついて行っているような三年間でした。家庭生活、それは多くの機能を持っていきますが、過疎化によって仕事の分野が増えているのが実状です。

郵便局の一部業務が祖式へ、小・中

学校が他地域へ統合されると聞いています。増々大代の存在が小さくなるように思えてなりません。これではいけないとあせりがつのつて来ます。行政の本質から見て、そこに住む人の立場に立って物事を考えてみる要素が欠けていると思うからなのです。古里を大切にすると云うことは、そのような知恵・行動を起こすという点に着目する必要性を感じます。

多くの智識人が居られる大代ですから、前途に希望を持ちつつ私達も協力してゆきたいと思えます。

俳句

―あすなる句会



。つくばいに 重元 コト

。影のさゆゆる実南天

。冬館 尾崎三枝子

。虫喰い松の余命かな

。散る紅葉 立野 草衣

。残るもみじの苔の庭

。秋深し 武田 島子

照葉一樹の明るくて

。しがみつく 渡 あやこ
木の葉落として雨上がる

おしらせ

◇火災予防

自11月26日―全国秋の至12月2日―火災予防週間

◇サイレン吹鳴責任者決まる

大田市では非常・災害時に於ける団員召集のサイレン吹鳴者は各町まちまちでしたが、今回消防法第18条2項に基づき、吹鳴責任者を次の通り決定されましたので御承知下さい。

大家側（公民館）

第1吹鳴者 松井 幸

第2 " 笹田茂春

第3 " 横田美恵子

新屋側（井谷商店向かい）

第1吹鳴者 井谷博子

第2 " 井谷英美

第3 " 原田一徳

◇健康ウォーク大会（歩け歩け）

―健康は先ず歩くことから―

日時 12月2日（日）8時30分

場所 公民館広場集合

コース 9時大代公民館出発→飯谷

（久具林道→了真寺→右原→木村牧場（11時30予定）昼食→下谷→公民館帰着14時30分

今年には百名を越す参加を望みます。

幼・小・中学校を始め婦人会・自治会の皆さん、是非ご参加下さい。

―健康は先ず歩くことから―

◇松喰虫、大代町でも蔓延!!

―記念樹既に4本伐採処理―

広場前の大正天皇（当時皇太子）行啓時の記念樹も被害を免れず既に4本を切り倒し残り5本になりました。11月に入り機械油乳剤、スミチオン等で取り敢えず予防、第2回目を12月に更に1月には注射液による治療予防を企画中です。

◇少年健全育成月間標語を募集致します

一、切りは十二月二十日、

公民館迄

二、入選作を十二句、毎月、町の中

央に掲げ、意識の普及を計りたいと存じます。

三、一人二句以内

四、未発表のもの

五、発表は新年に入って本紙で。